



平成30年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年7月31日

上場会社名 株式会社 不二家
 コード番号 2211 URL <https://www.fujiya-peko.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 櫻井 康文
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 総務人事本部長 (氏名) 中島 清隆
 四半期報告書提出予定日 平成30年8月9日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

TEL 03-5978-8100

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年12月期第2四半期の連結業績(平成30年1月1日～平成30年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年12月期第2四半期	51,625	0.2	886	341.7	985	205.8	396	—
29年12月期第2四半期	51,507	2.4	200	△68.6	322	△47.2	△7	—

(注) 包括利益 30年12月期第2四半期 299百万円 (228.9%) 29年12月期第2四半期 90百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	
	円	銭	円	銭
30年12月期第2四半期	15.38	—	—	—
29年12月期第2四半期	△0.29	—	—	—

※平成29年7月1日付で、当社普通株式 10 株を1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年12月期第2四半期	68,408	—	47,869	—	—	67.8
29年12月期	76,349	—	48,101	—	—	60.9

(参考) 自己資本 30年12月期第2四半期 46,369百万円 29年12月期 46,505百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
29年12月期	—	0.00	—	15.00	15.00
30年12月期	—	0.00	—	—	—
30年12月期(予想)	—	—	—	15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年12月期の連結業績予想(平成30年1月1日～平成30年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円
通期	107,000	1.0	2,300	103.8	2,500	71.2	1,300	△92.0	50.44

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

30年12月期2Q	25,784,659 株	29年12月期	25,784,659 株
30年12月期2Q	9,354 株	29年12月期	9,275 株
30年12月期2Q	25,775,330 株	29年12月期2Q	25,775,895 株

※平成29年7月1日付で、当社普通株式 10 株を1株の割合で株式併合を行っております。期中平均株式数につきましては、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、適正な情報に基づき作成したものでありますが、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。詳細は添付資料4ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（平成30年1月1日～6月30日）のわが国の経済は、企業収益の改善を背景に設備投資が増加し、雇用・所得環境の改善により個人消費は持ち直しの傾向にあるなど、景気は緩やかに回復しておりますが、先行きの不透明感から力強さを欠くものとなっております。

当社グループが属する食品業界においては、消費者の節約志向が根強い中で販売競争は激化し、経営環境は依然として厳しいものとなっております。

このような環境下にあつて当社グループは、お客様第一の考えのもと、新製品開発と既存製品の品質改善に絶え間なく取り組みました。また、売上増を目指すだけでなく、生産性の向上と経費管理の強化を進め、利益改善につとめてまいりました。

洋菓子事業においては旬の国産フルーツを使用した新製品の発売等によりチェーン店の売上確保を目指すとともに、量販店・コンビニエンスストアとの取り組みを強化し、売上増につとめました。製菓事業においては好調なチョコレート製品の拡販に取り組むとともに、主力ブランド強化の施策のもと、製品の開発と販売を積極的に行った結果、売上を伸長させることができました。これにより、主力生産ラインの稼働が促進され、生産性の向上をはかることができました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は516億25百万円（対前年同期比100.2%）、営業利益は8億86百万円（対前年同期比441.7%）、経常利益は9億85百万円（対前年同期比305.8%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は3億96百万円（前年同期は7百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

当社グループのセグメントの概況は次のとおりであります。

		当第2四半期連結累計期間		前第2四半期連結累計期間		対前年同期比	増減
		平成30年1月1日から平成30年6月30日まで		平成29年1月1日から平成29年6月30日まで			
		売上高	構成比	売上高	構成比		
洋菓子事業	洋菓子	百万円	%	百万円	%	%	百万円
	レストラン	13,225	25.6	14,127	27.4	93.6	△901
	計	3,038	5.9	3,279	6.4	92.7	△240
	計	16,264	31.5	17,406	33.8	93.4	△1,141
製菓事業	菓子	30,999	60.0	29,915	58.1	103.6	1,083
	飲料	3,183	6.2	3,193	6.2	99.7	△10
	計	34,182	66.2	33,109	64.3	103.2	1,073
その他		1,178	2.3	992	1.9	118.8	186
合計		51,625	100.0	51,507	100.0	100.2	117

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

<洋菓子事業>

当社単体の洋菓子においては、お客様の満足を第一に考え、製品と店舗運営の質の改善を進めております。チェーン店については、熊本県産ゆべに苺をはじめ産地・銘柄にまでこだわった旬のフルーツを使用した製品を積極的に展開し、さらに、当社の強みである店内製造機能を活用した作りたての製品も発売し売上確保をはかりました。また、沖縄県多良間島産黒糖を使用した製品群による「沖縄黒糖フェア」、北海道産の乳製品、メロン等を使用した製品群による「北海道フェア」を展開し売上増を目指しました。店舗面では、店内製造機能を重視した店舗を出店する一方、不採算店舗や後継者不在店舗の閉鎖を進め、収益性の向上に取り組んでおります。その結果、当第2四半期連結会計期間末の営業店舗数は前年同期差39店減の888店となりました。

広域流通企業との取り組みについては、量販店向けに生産性の高い製造ラインを活用したシュークリームなどのファミリーパックを『こどもの日』等の歳時毎に提案し、コンビニエンスストア向けにはマカロンや生ミルクキーなど、当社の強みを生かした製品を積極的に提案した結果、着実に売上を増加させることができました。しかしながら、チェーン店の売上減を回復するまでには至らず、単体の洋菓子は、前年同期の売上を下回りました。なお、物流費をはじめとする販売管理費の削減をはかるとともに、広域流通企業向け製品の生産能力増強及び省人化を進めております。

㈱スイートガーデンについては、新規取引先への製品の提案・販売に積極的に取り組みましたが、同社チェーン店の売上減、さらには利益改善を目的とした中間流通の合理化に伴う量販店・コンビニエンスストア向け製品の売上減により厳しい実績となりました。利益面では、製品原価・人件費の管理強化を進めております。

㈱ダロワイヨジャポンについては、当社が取得した商標権を活用し、中部地方の百貨店との新規取引を開始し、さらに百貨店カタログギフト向け製品の提案を積極的に行い売上拡大をはかりました。しかしながら、主力店舗である銀座店閉鎖も影響し、売上は前年同期を下回りました。

この結果、洋菓子類の売上高は、132億25百万円（対前年同期比93.6%）となりました。

レストランについては、お客様の健康志向に対応し海藻や穀物を使用した野菜サラダ、人気のステーキを取り入れたプレート料理に加え、季節毎のメニューを充実させました。その結果、既存店売上は前年同期を上回ったものの、不採算店等の閉鎖に伴う店舗数の減少もあり、売上高は30億38百万円（対前年同期比92.7%）となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における洋菓子事業全体の売上高は、162億64百万円（対前年同期比93.4%）となりました。

<製菓事業>

当社単体の菓子においては、『健康・グルメ』をテーマに、大袋タイプの「ピーナッツチョコレート」「アーモンドチョコレート」「毎日カカオ70%」など、カカオやナッツの健康イメージを訴求した、好調なチョコレート製品のさらなる拡販に取り組みました。また、主力ブランド強化の施策のもと、「ルック4ファミリーパック」をはじめ新製品の開発を推進し、夏場に向けては「ルック（2つのミント食べくらべ）」「夏のうすやきカントリーアマ（チョコミント）」などミントと組み合わせた清涼感ある製品を積極的に投入し、主力生産ラインの稼働を促進しました。また、発売50周年を迎えた「ホームパイ」では、株式会社東ハトとのコラボレーションによる「ホームパイ（キャラメルコーン味）」の発売も売上に寄与しました。利益面では、主力生産ラインの稼働促進に加え、生産設備の更新により収益性を向上させることができました。

不二家（杭州）食品有限公司については、中国における流通市場の変化に対応すべく、代理店と連携して拡大するインターネット通販市場への取り組みを強化するとともに、キャンディ製品の品揃えを充実させ、売上拡大につとめた結果、売上は前年同期を上回ることができました。

この結果、菓子の売上高は、309億99百万円（対前年同期比103.6%）となりました。

飲料については、主力製品である「ネクターピーチ350g缶」「レモンスカッシュ350ml缶」が売上を伸ばしたことに加え、新製品「ネクタースパークリング ピーチ&バレンシアオレンジ380ml」の寄与もありましたが、売上高は、31億83百万円（対前年同期比99.7%）と前年同期を下回る結果となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における製菓事業全体の売上高は、341億82百万円（対前年同期比103.2%）となりました。

<その他>

その他事業は、通販・キャラクター事業部のグッズ販売事業・ライセンス事業及び㈱不二家システムセンターの受注請負、データ入力サービスなどの事務受託業務であり、売上高は、11億78百万円（対前年同期比118.8%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における資産、負債、純資産の状況は以下のとおりであります。

流動資産は343億69百万円で、主に現金及び預金の減により前連結会計年度末に比べ92億78百万円減少いたしました。固定資産は340億39百万円で、主に有形固定資産の増により、前連結会計年度末に比べ13億38百万円の増加となりました。

この結果、総資産は684億8百万円で前連結会計年度末に比べ79億40百万円減少いたしました。

また、流動負債は153億48百万円で、主に未払法人税等の減により前連結会計年度末に比べ71億42百万円減少いたしました。固定負債は51億90百万円で、主に長期借入金の返済により前連結会計年度末に比べ5億66百万円減少いたしました。

この結果、負債は合計205億39百万円で、前連結会計年度末に比べ77億8百万円減少いたしました。

純資産は478億69百万円で、主に為替換算調整勘定の減少により前連結会計年度末に比べ2億32百万円減少いたしました。

次に、当第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、16億90百万円（前年同四半期は55億71百万円の獲得）となりました。これは主に売上債権の減少によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、29億75百万円（前年同四半期は15億62百万円の使用）となりました。これは主に有形固定資産の取得によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、24億64百万円（前年同四半期は15億75百万円の使用）となりました。これは主に長期借入金の返済によるものであります。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、182億14百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年12月期の業績予想につきましては、平成30年2月13日に発表した予想の変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	23,736	19,409
受取手形及び売掛金	13,394	9,461
商品及び製品	3,306	2,462
仕掛品	309	276
原材料及び貯蔵品	2,023	1,672
繰延税金資産	391	398
その他	765	973
貸倒引当金	△278	△283
流動資産合計	43,648	34,369
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,027	6,659
機械装置及び運搬具（純額）	8,966	9,323
土地	3,656	3,656
リース資産（純額）	1,017	938
その他（純額）	1,063	1,375
有形固定資産合計	20,731	21,953
無形固定資産		
その他	2,291	2,505
無形固定資産合計	2,291	2,505
投資その他の資産		
投資有価証券	5,930	5,945
繰延税金資産	101	44
敷金及び保証金	2,450	2,390
退職給付に係る資産	339	340
その他	1,063	1,068
貸倒引当金	△207	△208
投資その他の資産合計	9,678	9,580
固定資産合計	32,701	34,039
資産合計	76,349	68,408

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,287	5,651
短期借入金	2,164	909
1年内償還予定の社債	140	140
リース債務	368	337
未払金	5,476	4,058
未払法人税等	3,263	290
賞与引当金	312	346
店舗閉鎖損失引当金	60	17
その他	3,418	3,596
流動負債合計	22,490	15,348
固定負債		
社債	370	300
長期借入金	1,426	1,048
リース債務	868	760
繰延税金負債	80	76
退職給付に係る負債	2,065	2,089
長期末払金	23	23
その他	923	892
固定負債合計	5,756	5,190
負債合計	28,247	20,539
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,280	18,280
資本剰余金	4,065	4,065
利益剰余金	23,299	23,309
自己株式	△17	△17
株主資本合計	45,627	45,636
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	183	203
繰延ヘッジ損益	-	0
為替換算調整勘定	300	158
退職給付に係る調整累計額	394	369
その他の包括利益累計額合計	877	732
非支配株主持分	1,596	1,499
純資産合計	48,101	47,869
負債純資産合計	76,349	68,408

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年6月30日)
売上高	51,507	51,625
売上原価	27,617	27,531
売上総利益	23,890	24,093
販売費及び一般管理費	23,689	23,207
営業利益	200	886
営業外収益		
受取利息	21	25
受取配当金	26	30
持分法による投資利益	25	76
受取奨励金	43	-
その他	72	53
営業外収益合計	189	186
営業外費用		
支払利息	37	15
支払手数料	-	40
為替差損	11	-
その他	18	31
営業外費用合計	67	87
経常利益	322	985
特別利益		
固定資産売却益	-	1
投資有価証券売却益	12	-
特別利益合計	12	1
特別損失		
固定資産売却損	-	19
固定資産廃棄損	30	113
減損損失	2	-
特別損失合計	33	132
税金等調整前四半期純利益	301	854
法人税、住民税及び事業税	312	325
法人税等調整額	△78	28
法人税等合計	234	353
四半期純利益	67	500
非支配株主に帰属する四半期純利益	74	104
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△7	396

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年6月30日)
四半期純利益	67	500
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3	33
為替換算調整勘定	△50	△198
退職給付に係る調整額	61	△24
持分法適用会社に対する持分相当額	9	△12
その他の包括利益合計	23	△201
四半期包括利益	90	299
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	30	250
非支配株主に係る四半期包括利益	60	48

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	301	854
減価償却費	1,670	1,771
持分法による投資損益(△は益)	△25	△76
売上債権の増減額(△は増加)	6,249	3,972
たな卸資産の増減額(△は増加)	1,061	1,212
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,557	△1,614
未払金の増減額(△は減少)	△1,666	△1,427
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	△6	△26
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	84	24
その他	△145	△136
小計	5,965	4,553
利息及び配当金の受取額	146	155
利息の支払額	△39	△15
法人税等の支払額	△501	△3,002
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,571	1,690
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(△は増加)	161	483
投資有価証券の売却による収入	15	-
固定資産の取得による支出	△1,540	△3,092
その他	△198	△367
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,562	△2,975
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	200	-
長期借入金の返済による支出	△737	△1,632
社債の償還による支出	△320	△70
リース債務の返済による支出	△234	△233
配当金の支払額	△255	△383
非支配株主への配当金の支払額	△227	△144
その他	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,575	△2,464
現金及び現金同等物に係る換算差額	△10	△30
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,422	△3,779
現金及び現金同等物の期首残高	8,386	21,994
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,808	18,214

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成29年1月1日至平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	洋菓子事業	製菓事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	17,406	33,109	50,515	992	51,507	—	51,507
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	366	366	331	698	△698	—
計	17,406	33,476	50,882	1,324	52,206	△698	51,507
セグメント損益(△は損失)	△755	2,399	1,643	135	1,779	△1,579	200

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、キャラクターグッズ等の通信販売、ライセンス事業、不動産事業及び事務受託業務等を含んでおります。

2 セグメント損益(△は損失)の調整額△1,579百万円には、固定資産減価償却費の調整額2百万円、のれんの償却費の調整額△27百万円、その他の調整額4百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,558百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費に係る費用であります。

3 セグメント損益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成30年1月1日至平成30年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	洋菓子事業	製菓事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	16,264	34,182	50,446	1,178	51,625	-	51,625
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	352	352	301	653	△653	-
計	16,264	34,535	50,799	1,479	52,278	△653	51,625
セグメント損益(△は損失)	△658	2,930	2,272	208	2,480	△1,594	886

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、キャラクターグッズ等の通信販売、ライセンス事業、不動産事業及び事務受託業務等を含んでおります。

2 セグメント損益(△は損失)の調整額△1,594百万円には、その他の調整額8百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,602百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費に係る費用であります。

- 3 セグメント損益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。